

来月スタート

千葉・市川市

第2子 保育料無償化

千葉県市川市は今年10月から、0～2歳児の第2子以降の保育料について所得制限や第1子の年齢制限を設けず無償化する。市によると、県内の市では初の試み。子育て世帯の経済的負担の軽減が期待できるとして、保護者からは喜びの声が上がっている。

「家計の負担軽くなる」

0～2歳児21100人超が対象に

「日々のやりくりが大変。家計の負担が軽くなるので、本当にうれしい」。こう語るのは、市川市内で1歳と5歳の子育てに励む杉本麻衣子さん。同事業により、第1子が小学生以上になっても第2子が保育料無償化の対象となることから、「安心できる。ママ友の間でも話題になっていく」と話す。市によると2100人以上が無償化の対象となる見込みだ。推進してきた市議会公明党（西村敦幹事長）のメ

ンバーはこのほど、杉本さん親子と共に喜びを分かち合った。

同市はこれまで、国からの補助で市内の公立・私立保育園や認定こども園、小規模保育事業所といった認可保育施設に通う第3子以降の0～2歳児の保育料を無償化していたが、第2子については半額補助にとどまっていた。今回の第2子以降無償化で、認可保育施設を利用する世帯は平均で月額約2万1800円の負担軽減につながる。

また、市が定める要件を満たした認可外保育施設（簡易保育園）を利用する世帯については、従来の所得に応じた補助に月額2万5000円を上限に加算。これにより、



杉本さん親子と喜び合う市議会公明党のメンバー（左側8人）

認可	月平均2万1800円の軽減
認可外	月2万5000円上限に加算

最大で月額6万7000円までの保育料が補助されるようになる。

合計特殊出生率（1人の女性が生涯に産む子どもの数）の全国平均が1・30に対して、千葉県は1・21で市川市は1・17（いずれも2021年）と低い状況にある。さらに、市川市では子育て世帯の市外への転出も多くあった。

こうした背景から、市は2人以上の子どもを望む夫婦の支援や子育て世帯の定住促進などを目的に、子育て支援策を強化。小中学校の給食費の無償化や子どもの医療費助成の拡充を実現するなど、全力で少子化対策を進めている。

市議会公明党は、昨年10月の田中甲市長に対しての予算要望をはじめ、これまで一貫して子育て世帯の負担を軽減する支援の充実を訴えてきた。

西村幹事長は「今後も子育て世帯の不安と負担を軽減できるよう充実した支援を図っていく」と語っていた。